

科 目 名	プレゼミナールⅢ	備 考
単 位 数	各 2 単位	プレゼミナールⅣ（発展編）の履修を勧める

金 基 弘

### 音のプロフェッショナルに求められる音響学の基本と音に対する感性（基礎編）

#### 1. 講義目標・講義内容等

プレゼミナールⅢでは、音響エンジニアやサウンド・デザイナーといった「音」に関わる専門家に必要とされる音に対する感性や知識を体系的に養うことを目的に、ICTを駆使した講義支援システム「Moodle（ムードル）」を使用して授業を行っている。受講者は、音の感性を養成する教育プログラムである「聴能形成(Technical Listening Training)」と音響学の基礎を体系的に学習することで、音響の世界において欠かせない（もちろん映像の世界においても）音に対する鋭い感性と音に関する基礎知識の両方を身に付けることができる。

#### 2. 到達目標

「音」を聴く・感じる・考えることで、「音」に対する感性を音に対する知識と対応づけることができ、映像コンテンツにおけるサウンド・デザインや公共空間における音環境デザインなど、各種の音のデザインに関わる実践の場において、正しい専門用語を用いた円滑なコミュニケーションができることを目標とする。

#### 3. 関連科目

音響制作実習、サウンドデザイン演習、音楽情報処理演習、音響メディア論、サウンドデザイン論

#### 4. テキスト・参考書等

適宜、資料を配布する。

【参】北村音老、佐々木寛（監修）岩宮眞一郎、大橋心耳（編）：“音の感性を育てる—聴能形成の理論と実際—”，音楽之友社，1996.

【参】日本音響学会（編）金基弘 他多数（著）：“音響キーワードブック”，コロナ社，2016.

【参】岩宮眞一郎（著）：“図解入門 よくわかる最新音響の基礎と応用”，秀和システム，2011.

【参】音の百科事典編集委員会（編）：“音の百科事典”，丸善，2006.

#### 5. 成績評価方法

ゼミへの参加態度（※遅刻はクラス全体に迷惑を及ぼすことを自覚すること）やレポート（50%）、音響キーワードに関連する口頭試験（50%）により成績を評価する。口頭試験は、面接の形式で行う。音響の世界で必修であると考えられているキーワードを丸暗記するだけではなく、本プレゼミを通して概念をしっかり理解したうえで分かりやすく説明できることが良い評価をもらうためには重要である。

#### 6. 授業外における学習方法

指定する書籍をよく読んでおくこと。指示する専門用語の意味を調べておくこと。

授 業 計 画			
第1回	ガイダンス（「聴能形成とは」）	第9回	バンドノイズの中心周波数の識別
第2回	音の三要素Ⅰ—音の高さ—	第10回	音圧レベル差の識別Ⅰ—10 dB ステップ—
第3回	音の高さ（高・低）を弁別する	第11回	音圧レベル差の識別Ⅱ—5 dB ステップ—
第4回	音の三要素Ⅱ—音の大きさ—	第12回	調波複合音の成分数及び包絡の識別
第5回	音の大きさ（大・小）を弁別する	第13回	周波数特性の山付けⅠ—低域及び高域—
第6回	音の三要素Ⅲ—音色—	第14回	周波数特性の山付けⅡ—全域—
第7回	音色（同・異）を弁別する	第15回	復習及びまとめ
第8回	純音の周波数の識別		